

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																										
横浜システム工学院専門学校		平成4年8月11日		杉山 勝巳		〒 241-0826 (住所) 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881																										
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																										
学校法人YSE学園		平成4年8月11日		杉山 勝巳		〒 241-0826 (住所) 横浜市旭区東希望が丘128-4 (電話) 045-367-1881																										
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																							
工業	工業専門課程		AI・データサイエンス科		令和 2(2020)年度		-		令和 3(2021)年度																							
学科の目的	本学科では、データ分析・AIに関するソフトウェアを中心に学び、インターネットなどを通じて提供されるAIサービスを活用してシステムを構築できる人材を育成する。そのため、ITの基本、プログラミング、データ分析、AIについて学修するとともにAIを活用した課題制作に取り組み、実践的なAIシステムの構築スキルを身に着ける。2年次は、学生ITコンテストなどの校外の行事を活用した実践的な作品制作を中心としたカリキュラムとし、学生が、職業現場で求められている技術を活用した作品制作を行えるような環境づくりを行う。																															
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	【目標資格】 情報処理技術者能力認定試験、Webクリエイタ能力認定試験、Python 3 エンジニア認定基礎試験、ITパスポート試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、AI検定																															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技																							
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入			1,700 単位時間	792 単位時間	0 単位時間	1,332 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																						
					単位	単位	単位	単位	単位	単位																						
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率																									
80 人	45 人		12 人		0 %		15 %																									
就職等の状況	■卒業者数(C) : 9 人																															
	■就職希望者数(D) : 7 人																															
	■就職者数(E) : 7 人																															
	■地元就職者数(F) : 4 人																															
	■就職率(E/D) : 100 %																															
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 57 %																															
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 78 %																															
	■進学者数 : 0 人																															
	■その他																															
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)																															
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載																															
	評価団体: JAMOTE認証サービス(株) 受審年月: 令和6年12月 評価結果を掲載したホームページURL																															
当該学科のホームページURL	https://www.yse.ac.jp/course/course_ai.html																															
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)																															
	<table><tr><td>総授業時数</td><td>2,124 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>396 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,440 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>396 単位時間</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr></table>											総授業時数	2,124 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	396 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	1,440 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	396 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間							
総授業時数	2,124 単位時間																															
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	396 単位時間																															
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																															
うち必修授業時数	1,440 単位時間																															
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	396 単位時間																															
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																															
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																															
	(B: 単位数による算定)																															
	<table><tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr><tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr></table>											総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位							
総単位数	単位																															
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																															
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																															
うち必修単位数	単位																															
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																															
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																															
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																															
教員の属性(専任教員について記入)	<table><tr><td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>② 学士の学位を有する者等</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td><td>3 人</td></tr><tr><td>③ 高等学校教諭等経験者</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>④ 修士の学位又は専門職学位</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td><td>2 人</td></tr><tr><td>⑤ その他</td><td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td><td>0 人</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>5 人</td></tr><tr><td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td><td></td><td>4 人</td></tr></table>											① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計		5 人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4 人
	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0 人																													
	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	3 人																													
	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																													
	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2 人																													
	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																													
	計		5 人																													
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		4 人																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、職業実践的かつ専門的な能力を持つビジネス人材を育成するため、特に職業に関連した企業、関係施設、業界団体等との密接な連携を通じ、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組むことを目的とする。

1) 教育課程の編成に関すること

① 企業等からも委員を募り、委員の意見を反映して、授業科目等の教育課程の編成、授業方法や成績評価方法の改善・工夫などを協議する。

2) 教育の実践に関すること

① 企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保し、演習・実習等を実施できるよう協議する。

② 新鮮な実践的教材により、活きた育てる実践的な教育を実施できるよう協議する。

③ 企業内実習、コラボレーション、インターンシップ等、企業との関わりを増やし、学生が企業の現場を知り、学んでいることがどう活かせるかを知ることにより、職業理解を深めると共に、安心して学業に取り組める環境を構築し、学業意欲の向上を図れるように協議する。

④ 経験豊富な企業人講師による特別授業を適時行えるように講師選を協議する。

⑤ 企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるよう協議する。

⑥ 企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるよう協議する。

⑦ 楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取り組みながら、自信と自主性を育てられるよう協議する。

⑧ YSEフェスタや卒業制作発表会などの学校行事に向けては、企業等の声を取り入れて、グループで実践的な活きた作品作りに取り組めるよう協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

(1)の基本方針のもとに、教育実践に関する①—⑧の項目について、教育課程編成委員会で協議する。学科で立案した教育課程・授業内容・授業方法に関して、専門分野ならびに就業後の実務や職業人としての立場から意見をいただく。また、該当年度の実施状況の報告にもとづく見直しの提案やアドバイスをいただく。これらの意見、提案学院長・室長で構成する企画運営会議で諮り、教育課程等に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 副会長・SE 講座特別委員会 委員長 (株式会社情創 代表取締役社長)	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	①
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長 (神奈川県情報サービス産業協会 副会長)	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	③
田村 孝章	株式会社アクロイト 代表取締役社長 (神奈川県情報サービス産業協会 理事)	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	③
新井 一功	ネクストポイント株式会社 執行役員	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	③
渡部 雄三	(株)アイランドコンサルタント 代表取締役	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	③
鈴木 晶	(株)アナザーウエア (神奈川県情報サービス産業協会 理事)	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	③
関口 良太	株式会社GR Support 代表取締役	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	③
鈴木 誠	鈴木誠中小企業診断士事務所 代表	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	③
杉山 勝巳	横浜システム工学院専門学校 理事長 学院長		—
杉山 明彦	横浜システム工学院専門学校 理事 総務企画室長		—
富永 英世	横浜システム工学院専門学校 評議員 先進IT教育指導室長		—
杷野 恭久	横浜システム工学院専門学校 キャリアセンター長		—

花島 恒登	横浜システム工学院専門学校 先進IT教育指導室 室長補佐		—
田中 正彦	横浜システム工学院専門学校 先進IT教育指導室 室長補佐		—
瀬戸 幸司	横浜システム工学院専門学校 情報基盤整備センター長		—
高貝 律弘	横浜システム工学院専門学校 グローバルIT教育指導室 室長代理		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年7月29日 16:00～18:00

第2回 令和7年2月27日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

自治体が抱える課題解決をテーマに卒業作品の制作を進めているが、現状、予測モデルの正解率が低く、実用化には至っていない。

今後は、予測モデルの精度を向上させる工夫を加えるとともに、他の視点から課題を解決する方法を模索する必要がある。

具体的には、企業のAI活用事例や、データの多角的な活用方法を参考に、作品制作をさらに発展させていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育連携協定書の以下の項目

- ②新鮮な実践的教材により、活きた育てる実践的な教育を実施できるようにする。
- ⑤企業等の声を取り入れて、教科書等に依存した教える教育に終始することなく、通学し仲間と共に学ぶことにより身につく課題挑戦型のグループ実習を継続実施できるようにする。
- ⑥企業等の声を取り入れて、複数の学科・コース間連携による実践的教育を推進し、作品力やコミュニケーション能力などの向上を図れるようにする。
- ⑦楽しく学びながら感動体験や外部の学生や社会人と競争し合い勝利体験を味わえるコンテストへの取り組み、展示会出展等、時代の求める活きた課題に取組みながら、自信と自主性を育てられるようにする。

以上の実践に当たっては、学生が学ぶこと、経験することを、実践的職業体験に昇華させて技術や知識を自分のモノにさせる。そのために、課題挑戦型プロジェクト教育という手法を使って、チームでの作品作りを中心に、実習・演習を行い、プレゼンテーションで締めくくるようにしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

1. 授業科目：AIシステム開発実習a
2. 連携内容：企業と連携して作成した「YSE卒業制作ガイドライン」のシステム設計書およびテスト仕様書のフォーマットを使用して、卒業作品を制作する。「YSE卒業制作ガイドライン」は毎年見直しを掛ける。
企業や自治体が抱える課題をテーマとして卒業作品を企画する。
4人程度のグループで1つのプロジェクトとし、グループ内でサブシステム単位に担当を決める。
連携先企業の講師から設計書の提示と説明を受け、各授業の終了時に各グループから進捗状況を報告する。問題が発生した場合は、講師と学生とで相談しながら解決を図る。
担当教員は、プロジェクト全体をサポートしながら、各学生の作業状況を確認する。
すべての授業終了後、課題の制作状況、各学生の取り組み状況やプロジェクトへの貢献度により講師と担当教員により評価する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
AIシステム開発実習a	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	・企業から提供されたサンプルシステム設計書(概要設計・詳細設計)を学生グループが開発し、そのシステムに機能を追加する(改良) ・設計書をもとにシステムを開発させることで開発の一連の流れを経験すると同時に機能を追加させることで設計書の書き方を体験させる ・グループ内のコミュニケーションを活性化させることでチームビルディングを行なう。 【企業連携】 ・企業からサンプルシステム設計書および説明書をいただき、科目担当の先生が学生に説明と指導を行う ・期末に学生グループが完成させたシステムのプレゼンテーションを行い、企業からコメントをいただき、コメントをもとにフィードバックする ・企業に完成したシステムを評価していただく	ネクストポイント株式会社 株式会社アイランドコンサルタント

AIシステム開発実習b	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	・企業や自治体から提供された課題から、学生グループが企画を考え、それをシステム化するための要件定義をおこない、企画書を様式に合わせて作成する ・問題解決能力とコミュニケーション能力を身につける 【企業連携】 ・企業から企画書のフォーマットをいただき解説していただく ・企業から現場の開発の流れについて講義していただき、課題を受けとり、企画書にまとめる ・期末に学生グループが完成させた企画書の発表を行い、企業からコメントをいただき、コメントをもとにフィードバックする ・企業に企画内容を評価していただく	ネクストポイント株式会社 株式会社アイランドコンサルタント
AIシステム開発実習c	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	・企画書から詳細設計書を作成する ・問題解決能力とコミュニケーション能力を身につける 【企業連携】 ・企業から詳細設計書の書き方や注意点について解説していただき、設計書にまとめる ・期末に学生グループが完成させた設計書の発表を行い、企業からコメントをいただく。 ・コメントをもとにフィードバックする ・企業に設計書内容を評価していただく	ネクストポイント株式会社 株式会社アイランドコンサルタント
AIシステム開発実習d	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	・詳細設計書からシステムの試作版を作成し、レビュー後に完成版を実装する ・テスト仕様書フォーマットを活用してテスト内容を作成し、品質の高いシステムを完成させる ・問題解決能力とコミュニケーション能力を身につける 【企業連携】 ・企業からテスト仕様書の書き方や注意点について解説していただき、学生グループがテスト内容をまとめる ・試作版と完成版の発表を行い、企業からコメントをいただく ・コメントをもとにフィードバックする ・企業に完成版を評価していただく	ネクストポイント株式会社 株式会社アイランドコンサルタント
卒業作品発表会	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	コンテンツ企画書発表会 卒業作品設計書発表会 卒業作品試作版発表会 卒業作品最終発表会 卒業作品展示会	ネクストポイント株式会社 株式会社アイランドコンサルタント

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規程 第3条(本学の責務)

本学は、教職員に対する研修の必要性を理解するとともに、研修計画を策定し、その研修計画に基づく研修を実施することにより、教職員に研修を受ける機会を与えなければならない。

2 本学は、前項の研修計画を策定し、研修を実施するに当たって、教職員の自己啓発に向けた意欲を高めるよう努めるものとする。

3 本学は、必要と認めるときは、他の機関と共同して又は外部の機関に委託して研修を行うことができるものとする。

ITに関しては進展の速度が速く、常に最新の技術動向を学習することが求められているため、本学科の担当教員については技術研修を重視し、積極的に研修に参加させている。

また、企業現場での実績を重視した教員採用を行っているが、学生の指導に関しては専門学校で学生を指導するための技術が必要であり、指導技術についても積極的に参加させている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 教職員向けAI研修(生成AIのある働き方)

連携企業等: 神奈川県中小企業診断士

期間: 2024年9月～2025年2月(毎月下旬に1回)

対象: 教職員

内容 生成AIの活用の仕方を学ぶ。グループワークにより、AIを活用して課題と解決策を導き出す。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: kintone hive tokyo

連携企業等: サイボウズ株式会社

期間: 2025年7月15日

対象: 教員

内容 Kintoneの業務改善成功事例の紹介

研修名: 戦略マネジメントゲーム

連携企業等: 一般社団法人 町田市経営診断協会

期間: 2025年8月7日

対象: 教職員

内容 マネジメントゲーム 体験会

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 能動的学修(職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習)

連携企業等: TCE財団

期間: 2025年7月31～2025年8月1日

対象: 教員

内容 アクティブラーニングの定義や授業への導入方法を習得する講座

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の教育活動その他の学校の運営の状況について、自己点検・自己評価結果に基づき学校関係者評価を行い、学校運営の改善並びに教育水準の向上に資するための方策を講ずる。本校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供することにより、企業等関係者の理解を深めると共に、良好な連携及び協力体制を推進する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか) ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか
(2)学校運営	・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか
(3)教育活動	・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Doを意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか ・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか ・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか ・情報・IT分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか) ・情報・IT分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか

(4) 学修成果	・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか) ・履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
(9) 法令等の遵守	・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

いただいた意見として、目標とする「基本情報技術者試験」の合格者および受験者数の少なさ、AI関連の目標資格の合格者および受験者数の少なさ、グループ学習を促進する課題の不足が挙げられた。これらの点を踏まえ、シラバスの内容に反映させていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
富樫 和弘	神奈川県情報サービス産業協会 副会長・SE 講座特別委員会 委員長 (株式会社情創 代表取締役社長)	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	業界団体 委員
前山 浩志	デジタルコム株式会社 代表取締役社長 (神奈川県情報サービス産業協会 副会長)	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	企業等委 員
田村 孝章	株式会社アクロイト 代表取締役社長 (神奈川県情報サービス産業協会 理事)	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	企業等委 員
新井 一功	ネクストポイント株式会社 執行役員	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	企業等委 員
鈴木 誠	鈴木誠中小企業診断士事務所 代表	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	企業等委 員
大谷 高	秀英高等学校 校長	令和7年6月1日 ～令和8年5月31日	学識経験 者
久保寺 美奈	卒業生	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	卒業生
濱田 恵美	在校生保護者	令和6年6月1日 ～令和8年5月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.yse.ac.jp/about/disclose.html>

公表時期: 2025年9月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿って、学校案内・募集要項等の印刷物やホームページを通して情報提供を行っている。毎年、学校関係者評価委員会で確認後、9月1日には公表できるようにしている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	・学校案内 学院長メッセージ、学校法人概要・沿革、YSEグランドコンセプト、YSE3つのポリシー、YSEの4つの魅力
(2)各学科等の教育	・学科案内 AI・データサイエンス科 ・入学案内 募集学科・入学資格、入学方法、出願方法
(3)教職員	・実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
(4)キャリア教育・実践的職業教育	・就職・進学案内 YSEキャリアネット
(5)様々な教育活動・教育環境	・事業報告書(V. 事業報告) ・施設・設備 ・キャンパスライフ
(6)学生の生活支援	・入学案内 奨学サポート
(7)学生納付金・修学支援	・入学案内 入学金・学費、学費等納入方法
(8)学校の財務	・財務計算に関する書類
(9)学校評価	・自己点検評価報告書 ・学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.yse.ac.jp/about/disclose.html>

公表時期: 2025年6月30日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1			○	コンピュータリテラシーa	コンピュータを使用して、ビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式を主としたコースになる	1 ①	18				○	○		○		
2			○	コンピュータリテラシーb	コンピュータを使用して、ビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式を主としたコースになる。	1 ②	18				○	○		○		
3			○	コンピュータリテラシーc	他の授業・卒業制作発表会にて、効果的なプレゼンテーションスキルを身に付ける授業提供	1 ③	18				○	○		○		
4			○	コンピュータリテラシーd	利便性において、非常に有効なツール：Google Workspace使用を分かりやすく修得を図る為に、主にビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式としたコースになる	1 ④	18				○	○		○		
5	○			IT基礎	IT系実務経験者により、コンピュータの基礎理論などテクノロジー系について指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う	1 ①	36			○		○		○	○	
6	○			コンピュータシステム技術	IT系実務経験者によりソフトウェア/ハードウェアの知識と技術要素などテクノロジー系について指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う	1 ①	36			○		○		○	○	
7	○			開発技術とマネジメント	IT系実務経験者により開発技術とマネジメント手法などについて指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う	1 ②	36			○		○		○	○	
8	○			ネットワークセキュリティ	IT系実務経験者によりネットワークとセキュリティ分野について指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う	1 ②	36			○		○		○	○	
9	○			システム戦略とマネジメント	IT系実務経験者によりシステム戦略・マネジメントについて指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う	1 ③	36			○		○		○	○	
10	○			企業と戦略	IT系実務経験者によりシステム戦略・マネジメントについて指導。必要とされる知識を獲得するため、教材学習と過去問題の演習を行う	1 ③	36			○		○		○	○	
11	○			基本情報演習	IT系実務経験者が、高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能・活用能力を教授する。B試験問題のサンプル、アルゴリズムの過去問を実際に解きながら、問題のポイントを理解し、必要とされる応用力を獲得する	1 ④	72			○		○		○	○	

12	○			データサイエンス基礎a	データサイエンス領域に情報科学活用し、社会展開の実務経験の具体的な事例の紹介により、データサイエンス概要を把握してもらい、コンピュータを使用した、極力ビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式を主としたコースである。	1 ①	18		○			○		○	○	
13	○			データサイエンス基礎b	データサイエンス領域に情報科学活用し、社会展開の実務経験の具体的な事例の紹介により、データサイエンス概要を把握してもらい、コンピュータを使用した、極力ビジュアル的に重要事項・ポイントを理解する演習形式を主としたコースである。	1 ②	18		○			○		○	○	
14	○			データサイエンス基礎c	ディープラーニングを支える「畳み込みニューラルネットワーク」は人工ニューロンから構成されています。面白いことに、その一つひとつがExcelの一つひとつのセルに相当するのです。すなわち、畳み込みニューラルネットワークの構造を容易に理解・把握できます。Excelは、AI学習に最適です。	1 ③	18		○			○		○	○	
15	○			データサイエンス基礎d	ディープラーニングを支える「畳み込みニューラルネットワーク」は人工ニューロンから構成されています。面白いことに、その一つひとつがExcelの一つひとつのセルに相当するのです。すなわち、畳み込みニューラルネットワークの構造を容易に理解・把握できます。Excelは、AI学習に最適です。	1 ④	18		○			○		○	○	
16	○			Pythonプログラミングa	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける	1 ①	72					○	○		○	
17	○			Pythonプログラミングb	Pythonをもとに、アルゴリズムとプログラミングを実習にて身につける	1 ②	72					○	○		○	
18	○			Pythonプログラミングc	IT系の実務経験者が、ゲームサンプルのプログラム作成を教授する。学生は、PythonによるGUI環境を構築し、これを用いて、2Dゲームのサンプルを作成する。この授業を通して、図形の描画、図形の移動、描画の切り替え等の基本動作を習得する	1 ③	72					○	○		○	
19	○			Python 実習 (ゲームプログラミング)	IT系の実務経験者が、ゲーム制作の流れを実例を含めて教授する。学生は、ゲームの企画から開発を行うまでの基本的な手順と技術を学び、ゲーム開発の企画を立案、プレゼンを行う。並行して、ビジュアル言語で簡易なゲームを作成し、理論と実際を結び付けて理解する	1 ④	72					○	○		○	
20	○			Webシステム開発基礎a	HTMLとCSSを使って静的なWebページを作成するための環境構築から始め、実際のWebページ作成の実習を行う	1 ①	54					○	○		○	○
21	○			Webシステム開発基礎b	1学期に学んだ知識をもとに、検定試験の模擬問題を解くことで知識の定着を図る。また、検定試験出題パターンの理解を深め、合格を目指す	1 ②	54					○	○		○	○

22	○		Webシステム開発基礎c	JavaScriptを基本構文から学び、イベント処理やアニメーションなど、動的なWebページの作成方法について理解する	1 ③	54				○	○		○	○	
23	○		Webシステム開発基礎d	前半は、PHPの構文とSQLについて学び、データベース処理の基本を修得する。後半は、フレームワークの使い方を学び、効率の良い開発方法を修得する	1 ④	54				○	○		○	○	
24	○		ロジカルシンキングa	物事を考えるとき、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方を理解し、活用するスキルを身につける	1 ①	18		○			○		○		
25	○		ロジカルシンキングb	物事を考えるとき、正確な答えを導き出すために必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方を理解し、活用するスキルを身につける	1 ②	18		○			○		○		
26	○		コミュニケーション技法a	IT系実務経験者により、コミュニケーションについての必要性/重要性を伝える。クラスをいくつかのグループに分け、ワークショップ形式の実習を通して、「傾聴力」「説明力」「質問力」「協調性」等を伸ばしていく。特にaでは人との会話（面接なども含め）について集中的に実施する	1 ③	18		○			○		○		
27	○		コミュニケーション技法b	IT系実務経験者により、コミュニケーションについての必要性/重要性を伝える。クラスをいくつかのグループに分け、ワークショップ形式の実習を通して、「傾聴力」「説明力」「質問力」「協調性」等を伸ばしていく	1 ④	18		○			○		○		
28	○		キャリアデザインI a	何のために就職するのか、どんな会社を目指せばよいのか。就職活動を始めるとあたり、社会に出て働くことの意義について考えていく	1 ①	18		○			○		○	○	
29	○		キャリアデザインI b	何のために就職するのか、どんな会社を目指せばよいのか。就職活動を始めるとあたり、社会に出て働くことの意義について考えていく	1 ②	18		○			○		○	○	
30	○		キャリアデザインI c	何のために就職するのか、どんな会社を目指せばよいのか。就職活動を始めるとあたり、社会に出て働くことの意義について考えていく	1 ③	18		○			○		○	○	
31	○		キャリアデザインI d	何のために就職するのか、どんな会社を目指せばよいのか。就職活動を始めるとあたり、社会に出て働くことの意義について考えていく	1 ④	18		○			○		○	○	
32	○		基礎ゼミa	学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る	1 ①	9		○			○		○	○	
33	○		基礎ゼミb	学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る	1 ②	9		○			○		○	○	
34	○		基礎ゼミc	学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る	1 ③	9		○			○		○	○	
35	○		基礎ゼミd	学校のルールを理解することから始める。検定資格などの目標を設定する。クラス内でコミュニケーションが円滑になるようにクラス内で会話し協力できる雰囲気を作る	1 ④	9		○			○		○	○	

36			○	データサイエンス応用a	・データサイエンティストスキルチェックリストver3.01のデータサイエンス分野・データエンジニアリング分野について見習いレベルに到達する ・線形代数、確率分布、回帰分析、検定を表計算アプリ及びPythonで処理できるようになる	2 ①	72					○	○		○		
37			○	データサイエンス応用b	・データサイエンティストスキルチェックリストver3.01のデータサイエンス分野・データエンジニアリング分野について見習いレベルに到達する ・線形代数、確率分布、回帰分析、検定を表計算アプリ及びPythonで処理できるようになる	2 ②	72					○	○		○		
38			○	データサイエンス応用c	・データサイエンティストスキルチェックリストver3.01のデータサイエンス分野・データエンジニアリング分野について見習いレベルに到達する ・線形代数、確率分布、回帰分析、検定を表計算アプリ及びPythonで処理できるようになる	2 ③	72					○	○		○		
39			○	データサイエンス応用d	・データサイエンティストスキルチェックリストver3.01のデータサイエンス分野・データエンジニアリング分野について見習いレベルに到達する ・線形代数、確率分布、回帰分析、検定を表計算アプリ及びPythonで処理できるようになる	2 ④	72					○	○		○		
40			○	AI実践a	産学連携として構えておく	2 ①	36					○	○		○		
41			○	AI実践b	産学連携として構えておく	2 ②	36					○	○		○		
42	○			AIシステム開発実習a	・卒業制作を進める上で必要な事前知識を身につける ・卒業制作課題の企画、スケジュール管理等の制作プロセスを理解、実施する ・設計、開発、テスト、発表を行い、業界に必要なスキルを身につける	2 ①	54					○	○		○		○
43	○			AIシステム開発実習b	・卒業制作を進める上で必要な事前知識を身につける ・卒業制作課題の企画、スケジュール管理等の制作プロセスを理解、実施する ・設計、開発、テスト、発表を行い、業界に必要なスキルを身につける	2 ②	54					○	○		○		○
44	○			AIシステム開発実習c	・卒業制作を進める上で必要な事前知識を身につける ・卒業制作課題の企画、スケジュール管理等の制作プロセスを理解、実施する ・設計、開発、テスト、発表を行い、業界に必要なスキルを身につける	2 ③	144					○	○		○		○

45	○		AIシステム開発実習d	・卒業制作を進める上で必要な事前知識を身につける ・卒業制作課題の企画、スケジュール管理等の制作プロセスを理解、実施する ・設計、開発、テスト、発表を行い、業界に必要なスキルを身につける	2 ④	144				○	○	○	○
46		○	Webプレゼンテーション実習a	・アウトラインからのプレゼン設計。ズームリングプレゼンテーション、映像制作、配信を含むプレゼンテーションの「ストーリー」を設計できるようになる	2 ①	36		○			○	○	
47		○	Webプレゼンテーション実習b	・アウトラインからのプレゼン設計。ズームリングプレゼンテーション、映像制作、配信を含むプレゼンテーションの「ストーリー」を設計できるようになる	2 ②	36		○			○	○	
48		○	資格対策演習a	・FE未取得者向けの対策講座を実施する ・他の資格対策は課外で実施する	2 ①	36		○			○	○	
49		○	資格対策演習b	・FE未取得者向けの対策講座を実施する ・他の資格対策は課外で実施する	2 ②	36		○			○	○	
50		○	キャリアデザインⅡa	・会社説明会や進学説明会の準備、対策をする ・就職活動のスキル（メールの書き方、履歴書作成、面接対策）を身につける ・新社会人に必要なルールやマナーなどの基礎知識を身につける	2 ①	18		○			○	○	
51		○	キャリアデザインⅡb	・会社説明会や進学説明会の準備、対策をする ・就職活動のスキル（メールの書き方、履歴書作成、面接対策）を身につける ・新社会人に必要なルールやマナーなどの基礎知識を身につける	2 ②	18		○			○	○	
52		○	キャリアデザインⅡc	・会社説明会や進学説明会の準備、対策をする ・就職活動のスキル（メールの書き方、履歴書作成、面接対策）を身につける ・新社会人に必要なルールやマナーなどの基礎知識を身につける	2 ③	18		○			○	○	
53		○	キャリアデザインⅡd	・会社説明会や進学説明会の準備、対策をする ・就職活動のスキル（メールの書き方、履歴書作成、面接対策）を身につける ・新社会人に必要なルールやマナーなどの基礎知識を身につける	2 ④	18		○			○	○	
54		○	実践ゼミa	・生活指導、連絡事項の周知、確認 ・チームビルディングを通して、クラス内コミュニケーションの円滑化を図る	2 ①	9		○			○	○	
55		○	実践ゼミb	・生活指導、連絡事項の周知、確認 ・チームビルディングを通して、クラス内コミュニケーションの円滑化を図る	2 ②	9		○			○	○	
56		○	実践ゼミc	・生活指導、連絡事項の周知、確認 ・チームビルディングを通して、クラス内コミュニケーションの円滑化を図る	2 ③	9		○			○	○	

57			○	実践ゼミd	・生活指導、連絡事項の周知、確認 ・チームビルディングを通して、クラス内 コミュニケーションの円滑化を図る	2 ④	9		○			○		○		
合計					57 科目	2124 単位（単位時間）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 必修科目と選択科目の合計で1,700時間以上修得すること。		1 学年の学期区分	4 期
履修方法： 必修科目は履修必須、選択科目は自由履修		1 学期の授業期間	9 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。